

# ブドウ新品種 ‘甲斐ベリー7’

内藤一孝<sup>1</sup>・小林和司・塩谷諭史・雨宮秀仁<sup>2</sup>・山下浩輝<sup>3</sup>・両角斉彦<sup>4</sup>

- 1 現 山梨県総合農業技術センター
- 2 現 山梨県峡東農務事務所
- 3 現 山梨県農政総務課
- 4 現 山梨県農業技術課

キーワード：ブドウ，新品種，大粒，食味良好，甲斐ベリー7，赤色系

## 緒言

山梨県果樹試験場では2006年4月、育種部に生食ブドウ育種科を新たに設置し、オリジナル品種の育成を開始した。これまでに大粒でボリューム感のある‘ジュエルマスカット’<sup>1)</sup>、早生で着色良好な‘甲斐のくろまる’<sup>2)</sup>、大粒で着色良好な甲斐ベリー3’を育成してきた<sup>3)</sup>。

近年、‘シャインマスカット’が栽培面積、市場流通量を急速に伸ばしている<sup>4)</sup>。これは、種なしで皮ごと食べられる点が最近の消費者ニーズに合致したことや、栽培性の良さ等が要因にある。山梨県内における‘シャインマスカット’の出荷販売量も、2020年には5,090 tに達し、ブドウ販売量全体の39%を占めて‘巨峰’を初めて上回り、品種別で1位となった<sup>5)</sup>。

一方で生産現場や市場からは、‘シャインマスカット’の特性を引き継ぐ赤色を中心とした皮ごと食べられる着色系品種の開発が望まれていた。また他県においては、長野県の‘長果 G11 (商標登録名：‘クイーンルージュ®)’や、島根県の‘神紅’など、各主産県による赤色系品種の開発が進められていた。そこで当県においても、大粒で皮ごと食べられる県オリジナルの赤色系品種の開発を行ってきた。

その結果、マスカット香を呈し、皮ごと食べられ、食味が良好な欧州系二倍体系統として‘生食ブドウ山梨7号’を選抜し、2019年8月に品種名‘甲斐ベリー7’として品種登録の申請を行った。2019年11月に出願公表され、2022年1月に品種登録された。ここにその育成経過と特性について報告する。

## 育成経過

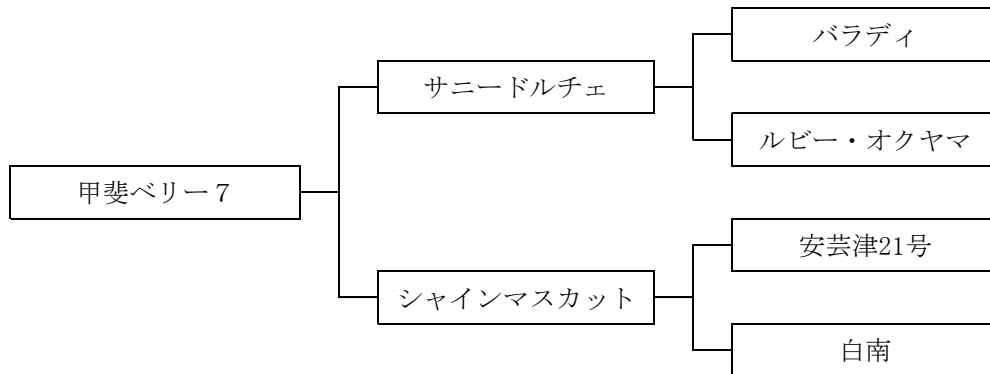
本品種は、大粒の赤色品種である‘サニードルチェ’を種子親とし、食味が優れる‘シャインマスカット’を花粉親として交雑し育成した。

交雑は2007年に山梨県果樹試験場圃場（山梨市江曾原）で行い、得られた種子は、湿らせた滅菌砂に混ぜ4℃で貯蔵した。2008年3月に貯蔵した種子を播種し、ガラス室内で管理した。発芽し生長した実生は2008年5月に‘101-14’台に緑枝接ぎを行い苗圃場で養成した。2009年4月に個体番号‘7-21×1-17’を付して実生選抜圃場に定植した。

2015年、マスカット香を呈し皮ごと食べられ、食味も良好であることから、系統名‘生食ブドウ山梨7号’として一次選抜した。2018年、県農政関係者や関係農業団体による検討の結果、大粒で食味良好な赤色ブドウとして有望な系統と認められたので、種苗法に基づき2019年8月5日付けで、品種名‘甲斐ベリー7’として品種登録申請を行った。2022年1月17日付けで品種登録された（登録番号28891）。

本品種の系統図を第1図、果房の外観を第2図、結実状況を第3図、果粒の外観を第4図に示す。

品種の育成に関与した担当者および担当期間は次のとおりである。両角斉彦（2007～2008）、飯島光夫（2007～2010）、小林和司（2007～2010、2015～2019）、山下浩輝（2009～2013）、竹下政春（2012～2016）、雨宮秀仁（2011～2015）、塩谷諭史（2014）、精進剛（2017～2019）、内藤一孝（2016～2019）。



第1図 ブドウ‘甲斐ベリー7’の系統図



第2図 ‘甲斐ベリー7’の果房



第3図 ‘甲斐ベリー7’の結実状況



第4図 ‘甲斐ベリー7’の果粒

内藤ら, ブドウ新品種 ‘甲斐ベリー7’

第1表 ‘甲斐ベリー7’ の樹体特性

品種名	樹勢	幼梢先端の綿毛の密度	若葉の表面の色	若葉裏面の葉脈間の綿毛の密度	花穂の長さ (cm)	花性	成葉の大きさ	成葉の形
甲斐ベリー7	中	中	赤銅	無又は極粗	28.9(長)	雌性	大	五角形
サニードルチェ	強	中	赤銅	無又は極粗	12.7(中)	雌性	大	五角形
シャインマスカット	中	密	淡赤銅	密	26.6(長)	両性	大	五角形

(第1表 つづき)

品種名	成葉の裂片数	成葉の上裂片の重なり	成葉の主脈に対する葉柄の長さ	成葉裏面の主脈間の綿毛の密度	熟梢の色	花振るいの多少	発芽期 <sup>z</sup>	満開期 <sup>z</sup>
甲斐ベリー7	5	開く	同等	無又は極粗	黄褐	中	4/11	6/1
サニードルチェ	5	閉じる	長	無又は極粗	黄褐	多	4/20	6/2
シャインマスカット	5	開く	同等	密	黄褐	中	4/12	6/2

<sup>z</sup> 発芽期および満開期は2017年～2019年の平均値

第2表 ‘甲斐ベリー7’ の果実特性

品種名	果粒形	果皮色	果皮と果肉の分離	果粉の多少	果肉特性	裂果の多少	香气	MYB 遺伝子型
甲斐ベリー7	狭楕円	赤	難	中	崩壊	無～極少	マスカット	AB
サニードルチェ	狭楕円	赤	難	中	崩壊	無～極少	その他	AB
シャインマスカット	広楕円	黄緑	難	中	崩壊	無～極少	マスカット	AA

第3表 ‘甲斐ベリー7’ の果実品質 (2017～2019年)<sup>z</sup>

品種名	収穫 始め日 <sup>x</sup>	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖 度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮色 <sup>w</sup> (C. C.)
甲斐ベリー7	8/18	641	18.3	19.2	0.42	3.6
甲斐ベリー7 複製樹 <sup>y</sup>	8/30	617	17.7	18.6	0.65	3.6
サニードルチェ	8/29	563	15.7	17.3	0.39	4.4
シャインマスカット	8/28	557	15.0	17.6	0.29	-

<sup>z</sup> 台木・樹齢：甲斐ベリー7原木(101-14台・9～11年生), 甲斐ベリー7複製樹(101-14台・5年生・2樹反復), サニードルチェ(レネ5BB台・10～12年生), シャインマスカット(101-14台・12～14年生)

長梢・種なし栽培, 甲斐ベリー7, シャインマスカット:GA25 (F5)+GA25, サニードルチェ:GA25 (F5)+GA25 (F5)

<sup>y</sup> 2019年のデータ

<sup>x</sup> 収穫始め(甲斐ベリー7:糖度18° Brix及びC. C. 値3.5を超えた日), (シャインマスカット:糖度18° Brixを超えた日), (サニードルチェ:糖度16.5° Brixを超えた日)

<sup>w</sup> 赤色系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構): 0(緑)～6(濃赤)

## 特性の概要

特性調査は, 農林水産植物種類別審査基準 (ぶどう属) に従って, 2017～2019年の3年間, 101-14台に接木した棚仕立て長梢剪定栽培樹(露地栽培)を用いて行った. 2019年における供試樹の樹齢は, 原木が11年生, 複製樹が5年生であり, ‘シャインマスカット’ に準じて慣行栽培した.

## 1. 樹体の特性

樹体に関する主な特性を第1表に示した. 樹勢は中程度である. 幼梢先端の綿毛の密度は中, 若葉表面の色は赤銅, 若葉裏面の葉脈間の綿毛の密度は無又は極粗である. 花穂は長く花性は雌性である. 成葉は大きく, 五角形で, 裂片数は5, 成葉の上裂片の重なりは開く, 成葉の主脈に対する葉柄の長さは同等で, 成葉裏面の主脈間の綿毛の



密度は無又は極粗である。熟梢の色は黄褐で、花振りの多少は中である。2017～2019年の発芽期の平均は4月11日で、‘シャインマスカット’より1日早く、満開期の平均は6月1日で‘シャインマスカット’より1日早い。

類似品種である‘サニードルチェ’、‘シャインマスカット’と明確に区別される形質は、以下のとおりである。幼梢先端の綿毛の密度が‘シャインマスカット’の密に対して中である、花性が‘シャインマスカット’の両性に対して雌性である、成葉裏面の主脈間の綿毛の密度が‘シャインマスカット’の密に対して無又は極粗である、香気が‘サニードルチェ’のその他に対してマスカットである。

## 2. 果実の特性

果実特性および果実品質に関する調査結果を第2表および第3表に示した。なお果実品質調査にあたっては、開花期に4 cm程度に花穂整形し、無核栽培を行うために植物成長調節剤を二倍体欧州系品種の適用に準じて、満開期にジベレリン25 ppm 加用ホルクロルフエニユロン液剤5 ppm、満開2週間後にジベレリン25 ppmの2回の浸漬処理を行った。摘粒時に軸長を約7 cmに調整し、35粒を目安に摘粒を行った。摘粒後に果房を白色袋で被覆し、果粒軟化期以降には着色管理として透明カサへのかけかえ、新梢管理、反射マルチの敷設を行った。

果房重は641 g程度、果粒重は18 g程度の大きさになる。果粒は狭楕円体で、果皮と果肉の分離性は難、果肉特性は崩壊性で皮ごと食べられる。果皮は赤色であり、MYB遺伝子型はABである。十分着色すれば、果房全体に鮮やかな赤色となるが、果底部の着色が進みにくい傾向が見られるほか

(第4図)、果頂部がやや薄い着色となる(第5図)。香気は華やかな香りを呈するマスカット香である。裂果粒率は0.2%であり、‘シャインマスカット’と同程度である。糖度は19° Brix、酸含量は0.4 g/100 mL程度で渋みは感じられず食味は良好である。ジベレリン処理した果房の熟期は、育成地において糖度18° Brixを超え、かつ果皮色のカラーチャート値3.5を超えた日を収穫始めの



第5図 ‘甲斐ベリー7’の果頂部の着色



第6図 ‘甲斐ベリー7’の果房の上部支梗が伸長し、果房上部が密着しにくい果房

目安とした場合、‘シャインマスカット’と比べて原木で10日程度早く、複製樹で2日程度遅い。果房の上部支梗が伸長しやすく、果房上部が密着しにくい傾向がある(第6図)。

### 栽培上の留意点

無核化のための植物成長調節剤処理は‘二倍体欧州系品種’の適用となる。花穂の整形は、花穂下部4 cm程度を用いて行い、35粒程度に摘粒すると600 g程度の果房に仕上がる。

防除は‘シャインマスカット’に準じた慣行散布の下では、特に問題となる病害虫の発生は見られない。食味良好でボリューム感のある赤色系ブドウの県オリジナル品種として、県内への普及が期待できる。

### 命名の由来

山梨の旧国名である甲斐、ブドウなどの漿果を意味するベリー、選抜系統名の7号を意味する7から‘甲斐ベリー7’(フリガナ;カイベリーナナ)とした。本品種の英語表記は‘Kai berry 7’である。

### 摘要

1. ‘甲斐ベリー7’は、山梨県果樹試験場で‘サニードルチェ’に‘シャインマスカット’を交雑して得られた実生から選抜された大粒で赤色の二体品種である。交雑は2007年で、2015年に‘生食ブドウ山梨7号’と系統名を付して特性の検討を行った。2019年に種苗法による品種登録出願を行い、2022年1月17日に登録番号28891号として品種登録された。
2. 樹勢は中程度、花穂は長く花性は雌性である。2017～2019年の発芽期の平均は4月11日で‘シャインマスカット’、より1日早く、満開期の平均は6月1日で‘シャインマスカット’より

り1日早い。

3. 果皮色は赤色で果粒の形は狭楕円体である。二倍体欧州系品種の適用に準じた植物成長調節剤処理によって、果粒は18g程度に肥大する。糖度は19° Brix程度で食味は良好であり、マスカット香を呈し皮ごと食べられる。育成地での収穫期は8月下旬である。
4. 食味良好でボリューム感のある赤色系ブドウの県オリジナル品種として、県内ブドウ産地への普及が期待できる。

### 引用文献

- 1) 小林和司・山下浩輝・両角斉彦・猪股雅人(2014). ブドウ新品種‘ジュエルマスカット’. 山梨果試研報. 13:9-14.
- 2) 小林和司・山下浩輝・両角斉彦・猪股雅人(2014). ブドウ新品種‘甲斐のくろまる’. 山梨果試研報. 13:15-20.
- 3) 小林和司・雨宮秀仁・塩谷諭史・山下浩輝・両角斉彦(2019). ブドウ新品種‘甲斐ベリー3’. 山梨果試研報. 16:1-6.
- 4) JA 全農やまなし(2019). シャインマスカットの近年の動向. 山梨の園芸. 5:16-18.
- 5) 全農山梨県本部営農販売部(2021). 果実山梨. 613.

## **New Grape Cultivar ‘Kai berry 7’**

Kazutaka NAITO<sup>1</sup>, Kazushi KOBAYASHI, Satoshi ENYA, Hidehito AMEMIYA<sup>2</sup>,  
Hiroki YAMASHITA<sup>3</sup> and, Narihiko MOROZUMI<sup>4</sup>

*Yamanashi Fruit Experiment Station, Ezohara, Yamanashi 405-0043, Japan*

Current address:

<sup>1</sup>Yamanashi Agritechnology Center

<sup>2</sup>Yamanashi Kyotou Branch Office

<sup>3</sup> Administrative Division for Agriculture

<sup>4</sup>Yamanashi Agricultural Technology Division

### **Summary**

‘Kai berry 7’ is a diploid table grape cultivar selected from a cross of ‘Sunny Dolce’ and ‘Shine Muscat’ at the Yamanashi Prefectural Fruit Experiment Station. It was crossed in 2007, named ‘Table Grape Yamanashi 7’ in 2015, and its characteristics were studied; an application for cultivar registration was filed in 2019, and the cultivar was registered in 2022 with registration No. 28891. The ripening period of gibberellin-treated bunches was late August at Ezohara, Yamanashi City, at 470 m above sea level, which is almost the same period as that of ‘Shine Muscat’. Grape skin color is rouge, and the MYB genotype is AB. The grape berry’s shape is narrowly ellipsoid. Seedless grapes can be produced commercially by applying gibberellic acid treatment to flowers and bunches. Seedless grapes can be produced by treating flowers and bunches with gibberellic acid at flowering and 10 to 15 days after flowering. The seedless grapes average 18 g in weight and have a good taste with a sugar content of about 19° Brix. The grapes have a muscat flavor and can be eaten whole with the skin. As with many commercial varieties in Japan, pruning of the bunches and thinning of the grapes are required to obtain attractive bunches.